





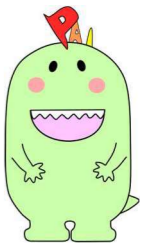
# 吃音 サポーターになろう！

-よき味方になるために-

始めます。

出前講座

まちづくり



## 出前講座って？

行政全般にわたる講座メニューの中から、市民の皆さんが聞いてみたい講座をリクエストしていただき、市民の皆様が主催する催しに市の職員講師が出向き、市政の情報を提供する制度です。Palette でも、平成30年度から「発達マイノリティって？」という出前講座を実施しています。

この度、Palette から新たに出前講座のメニューとして、「吃音サポーターになろう！-よき味方になるために-」を追加しました。今回のパレット・レターで、講座の内容を少し紹介いたしますので、興味がある方は、ぜひ出前講座をお申込みください。

## 吃音とは

吃音とは、言いたい事は頭に浮かんでいるのに、ことばの最初のタイミングが合わず、スムーズに言えない状態を言います。吃音には主に次の3つの症状があります。

- ①「ぼ、ぼ、ぼくは」のように、ことばの最初を繰り返す【**連発**】。
- ②「ぼーくは」と、ことばの最初を引き伸ばす【**伸発**】。
- ③「……ぼくは」と、ことばの最初が詰まって出にくい【**難発**】。

吃音は、2〜5歳のお子さんのうち5〜10%に発症すると言われていいます。そのうち7〜8割の方は、4年程度で自然に症状が消失し、最終的には1%の方に症状が残ると言われています。

## 原因と誤解

吃音の原因は、現在のところ分かっていません。そのため、「親の子育ての仕方」に原因がある、「本人の精神面に原因がある」、あるいは「ぶさけている」「わざとやっている」といった誤解を生むことがあります。また対応方法についても、「放っておくと自然に治る」「意識させない方がよい」「吃音は治せる、治さなくてはいけない」といった誤解があります。

## 当事者の悩み

小さいお子さんは、吃音の症状に自覚がない場合が多いです。しかし、年齢が大きくなるにつれて、他者からの指摘やからかいによって、だんだんと自分の話し方を自覚していきます。そして吃音を隠す努力をするようになります。

## 講座の目的

吃音のある方が安心してのびのびと生活するためには、吃音について理解された環境で、周りの人からの正しいかわり方の中で、コミュニケーションにおいて最も重要である、「お話しする意欲」を失わないようにすることが大切です。この出前講座では、吃音について理解し、そして吃音がある方を応援してくれる「吃音サポーター」を増やすことを目的としています。

## 講座の内容

本講座では、吃音に関する基本的な知識や当事者の悩みに加え、周りの人にできることを紹介しています。講座の時間は約40分間で、費用は無料です。

## 申込方法

本講座をご希望の方は、人事課（☎28・6004）または子ども若者発達支援センター（☎28・6029）までご連絡ください。

出前講座に関する詳しい内容については、人事課のホームページ（左記QRコードからご覧いただけます。）をご覧ください。出前講座の申込用紙もこちらダウンロードできます。



言語聴覚士 四宮

言語聴覚士 川上

講師はPaletteの言語聴覚士が務めさせていただきます。言語聴覚士とは、主に「話す（言語）」「聞く（聴覚）」「食べる（嚥下）」をサポートする職業です。